

蒲生干潟の地形調査③④

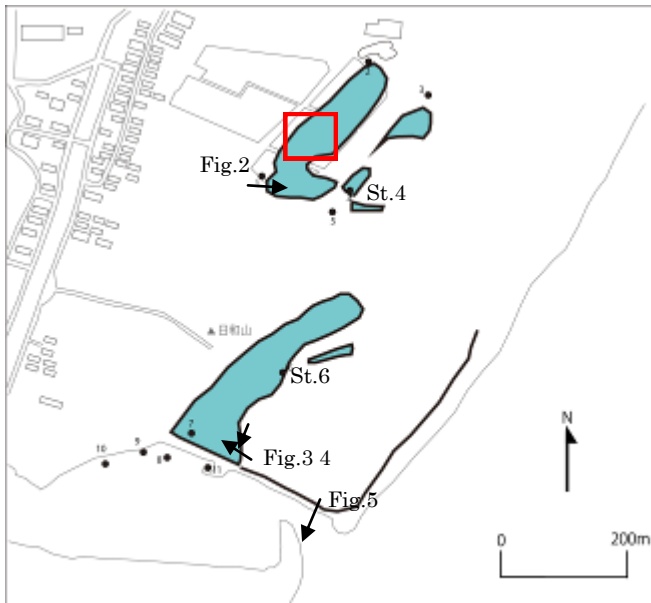


Fig.1 GPSによる簡易測量結果



Fig.3 導流堤の工事の様子（東側より撮影）



Fig.4 通水した通水部分（北側より撮影）



Fig.2 水位が下がり分断している北側潟湖（西側より撮影）



Fig.5 右岸の州（北側より撮影）

調査日 2018年6月8日（金）14：30～13：30 ※干潮時刻16：37（潮位64cm）

Fig.1はGPS簡易測量による6月の汀線である。南北に大きく2つに分断されていた潟湖のうち北側の潟湖はさらに大きく4つに分断されていた。また□で囲まれた部分の水位が下がり州があらわれていた(Fig.2)。北側潟湖3箇所での塩分濃度を測定したが、2.4・3.1%と高い値を示した。特にSt.4では3.1%と海水基準の値となっており、水の蒸発により水位が下がり、そのため塩分濃度が高まっていることが考えられる。

南側の潟湖の大きさは5月の調査結果と大きく変化することなく安定していた。南側潟湖ではSt.6と通水部付近の塩分濃度測定を行ったが3.0%と高い値となった。

導流堤付近の工事は進行しており(Fig.3)No.166で報告した東側の新たな通水部分は通水していた(Fig.4)。

河口付近は、右岸の砂州は西側部分が川の流れにより侵食され縮小し、海岸線も海側の侵食が進み全体的に南北に細い州がつくられていた(Fig.5)。

（中田 晋）